

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)サンワ 安城南物流センター	階数	地上2階
建設地	愛知県安城市福釜町下山26番1他10筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	40人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,400時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年2月 予定	評価の実施日	2026年2月2日
敷地面積	9,761 m ²	作成者	株式会社渡辺設計
建築面積	4,590 m ²	確認日	2026年2月2日
延床面積	8,497 m ²	確認者	株式会社渡辺設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%

②建築物の取組み: 81%

③上記+②以外の: 81%

④上記+: 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

機能性: N.A. 耐用性: 3.3 対応性: 4.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境: 2.0 まちなみ: 3.0 地域性: 2.0

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の: 5.0 自然エネ: 3.0 設備システム: 5.0 効率的: 2.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源: 3.4 非再生材の: 3.5 汚染物質: 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化: 3.7 地域環境: 3.5 周辺環境: 3.1

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.7

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積): 20.7%

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積): 0.0%

②資源の有効活用

3.7

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>: なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>: なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (株)サンワ 安城南物流センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質												3.0
Q1 室内環境												-
1 音環境												-
1.1 室内騒音レベル												3.0
1.2 遮音												-
1 開口部遮音性能												-
2 界壁遮音性能												-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												-
1.3 吸音												-
2 温熱環境												-
2.1 室温制御												3.0
1 室温												3.0
2 外皮性能												3.0
3 ゾーン別制御性												3.0
2.2 湿度制御												3.0
2.3 空調方式												3.0
3 光・視環境												-
3.1 昼光利用												3.0
1 昼光率												3.0
2 方位別開口												3.0
3 昼光利用設備												3.0
3.2 グレア対策												5.0
1 昼光制御												5.0
3.3 照度												3.0
3.4 照明制御												3.0
4 空気質環境												-
4.1 発生源対策												3.0
1 化学汚染物質												3.0
4.2 換気												3.0
1 換気量												3.0
2 自然換気性能												3.0
3 取り入れ外気への配慮												3.0
4.3 運用管理												3.0
1 CO ₂ の監視												3.0
2 喫煙の制御												3.0
Q2 サービス性能												-
1 機能性												0.43
1.1 機能性・使いやすさ												-
1 広さ・収納性												3.0
2 高度情報通信設備対応												3.0
3 バリアフリー計画												3.0
1.2 心理性・快適性												-
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0
2 リフレッシュスペース												3.0
3 内装計画												3.0
1.3 維持管理												-
1 維持管理に配慮した設計												3.0
2 維持管理用機能の確保												3.0
2 耐用性・信頼性												0.5
2.1 耐震・免震・制震・制振												3.3
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												0.4
2 免震・制震・制振性能												3.0
2.2 部品・部材の耐用年数												0.52
1 躯体材料の耐用年数												3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												0.3
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.9
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔												0.23
2.4 信頼性												0.1
1 空調・換気設備												3.0
2 給排水・衛生設備												3.0
3 電気設備												3.0
4 機械・配管支持方法												3.0
5 通信・情報設備												2.0

3 対応性・更新性				0.4	4.4	0.48	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高3.9m以上		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			【壁長さ比率】<0.1	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			倉庫床:4500N/㎡以上	3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性						3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性				ケーブルラック等により仕上材を痛めずに更新・修繕	3.0	5.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性				配管内配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	3.0	5.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.55	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.59	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	1.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓、泡沫水栓や節水型便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		② 独自	BCP、スマートベース工法、ニューフェローデッキ		4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				断熱材:スラブ下	3.0	3.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	内装が乾式工法で分別性に配慮、OAフロア採用	3.0	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材を使用		5.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率81%		3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない		5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自	雨水流出対策を実施している		4.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車場・駐車を確保し利便性にも配慮、荷捌き車両スペースを確保など		5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自			-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目を一部満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている		4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.7
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:20.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)サンワ 安城南物流センター

計画上の配慮事項	
総合	特になし
Q1 室内環境	-
Q2 サービス性能	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を設けることにより良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	OAフローを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。
その他	-